

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報 (A) 平1-117564

⑫ Int.Cl.⁴

H 04 N 1/00
G 07 C 1/00

識別記号

府内整理番号
Z-7334-5C
D-6727-3E

⑬ 公開 平成1年(1989)5月10日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑭ 発明の名称 ファクシミリ装置

⑮ 特願 昭62-275274

⑯ 出願 昭62(1987)10月30日

⑰ 発明者 安田 信之 東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内

⑱ 出願人 日本電気株式会社 東京都港区芝5丁目33番1号

⑲ 代理人 弁理士 井出 直孝

明細書

1. 発明の名称

ファクシミリ装置

2. 特許請求の範囲

(1) カード上の登録番号を含む情報を第一信号に変換するカードリーダを備えたファクシミリ装置において、

上記カードリーダでカードの読み取りが開始される日付および時刻を第二信号に変換する変換手段と、

上記第一信号と上記第二信号とを組にして記憶するメモリと、

このメモリの内容をファクシミリ信号として送信する手段と

を備えたことを特徴とするファクシミリ装置。

3. 発明の詳細な説明

【産業上の利用分野】

本発明は、ファクシミリ装置の付加手段に関する。

【概要】

本発明は、カードリーダを備えたファクシミリ装置において、

このカードリーダに挿入されるカード上の個人を特定する登録番号とこのカードの挿入時刻および日時とを組にして記憶する手段を備えることにより、

ファクシミリ装置をタイムレコーダとして利用し、しかもその情報を遠隔送信できるようにしたものである。

【従来の技術】

従来例装置のカードリーダは例えば部門別の通信機の管理用として使用していた。すなわち、部門別の登録番号を記録したカードをファクシミリ装置のカードリーダに通し原稿送信時またはコピーごとにその登録番号を識別し、送信枚数、コ

特開平1-117564 (2)

ピ一枚数および通信時に費やした課金データを月単位で内部に記憶し、必要に応じて各部門別の前記各データをフォーマッティングして統計的データとして出力させていた。

〔発明が解決しようとする問題点〕

このような従来のカードリーダーを有するファクシミリ装置は、カードの利用方法が通信量の管理のみに限定されコストパフォーマンスが低い欠点がある。

本発明はこのような欠点を除去するもので、個人の入退場管理もあわせて行うことができるタイムレコーダに代行する手段を有するファクシミリ装置を提供することを目的とする。

〔問題点を解決するための手段〕

本発明は、カード上の登録番号を含む情報を第一信号に変換するカードリーダーを備えたファクシミリ装置において、上記カードリーダーでカードの読み取りが開始される日付および時刻を第二信号に変換する変換手段と、上記第一信号と、上記第二信号とを組にして記憶するメモリと、このメモリ

の内容をファクシミリ信号として送信する手段とを備えたことを特徴とする。

〔作用〕

既存のファクシミリ装置のカードリーダーに個人を特定する登録番号の記載されたカードを挿入すると、この登録番号とともに挿入時刻および日付にかかる情報がメモリに記憶される。このメモリの内容は自装置のプリンタに印字され、またはリモートのセンタにファクシミリ情報として送出される。

〔実施例〕

以下、本発明の一実施例を図面に基づき説明する。第1図は、この実施例の構成を示すブロック構成図である。

この実施例は、第1図に示すように、カード上の登録番号を含む情報を第一信号に変換するカードリーダー1と、カードリーダー1でカードの読み取りが開始される日付および時刻を第二信号に変換する変換手段と、上記第一信号と、上記第二信号とを組にして記憶するメモリと、このメモリ

ータメモリ2と、このメモリの内容をファクシミリ信号として送信する手段である四線インタフェース3とを備える。

次に、この実施例の動作を第1図および第2図に基づき説明する。操作部5からのタイムカードとしての読み取りを指示する操作指示14を受けた制御部4はカードリーダー制御信号15に基づきカードリーダー1でカードの固有の登録番号を読み取らせ、固有の登録番号データ11としてカード読み取り時の計時データ17と共にデータメモリ2へ書き込む。操作部5で固有の登録番号に対するプリントアウト指示をする操作指示14を受けた制御部4はデータメモリ制御信号16に基づきすでに登録されている固有の登録番号と計時データをタイムカードとしてのフォーマッティングを行い、プリントアウト情報19としてローカルのプリンタ6へ出力する。ここで、固有の登録番号とは、例えば個人の社員番号であり、計時データとは、例えば入退場の日時データであり、月別に集計された表として出力される。また、セ

ンタマシンからボーリングを受けると、回線インターフェース3からのボーリング指示18に基づき制御部4からのデータメモリ制御信号16をデータメモリ2に与え、データメモリ2内のタイムカードデータ12は回線インタフェース3を介して回線データ13として扱い上げられる。

〔発明の効果〕

本発明は、以上説明したように、カードリーダーから読み取った固有の登録番号とカード読み取り時の日時を示す計時データとをデータメモリに記憶させておくので、ローカルでデータメモリをダンプして出勤状況の確認やセンターマシンからのボーリングにより個人別の月別タイムカードを容易に集計することができ、タイムレコーダなどの設備を設けることなく入退場の管理などを可能にする効果がある。

4. 図面の簡単な説明

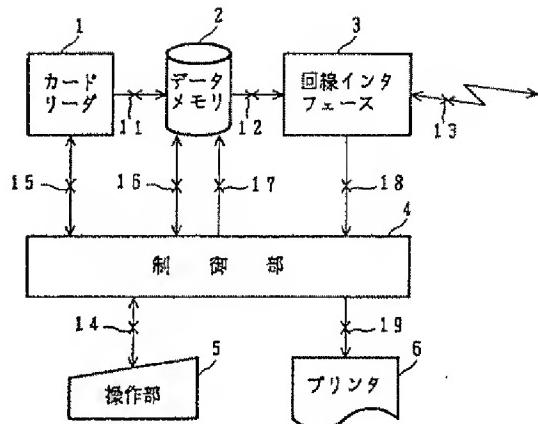
第1図は本発明実施例の構成を示すブロック構成図。

特開平1-117564 (3)

第2図は本発明実施例の動作を示すフローチャート。

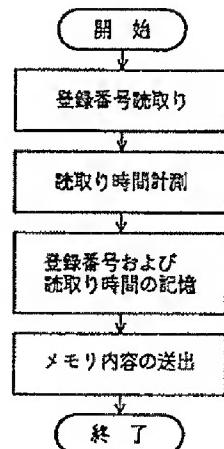
1…カードリーダ、2…データメモリ、3…回線インタフェース、4…制御部、5…操作部、6…プリンタ。

特許出願人 日本電気株式会社
代理人 弁理士 井出直孝



実施例の構成

第 1 図



実施例の動作

第 2 図